

キイジョウロウホトトギスの日長^{にっちょうしより}処理による開花調節

暖地園芸センター

研究のねらい

キイジョウロウホトトギスは、紀南の中山間地域に自生するユリ科の山野植物であり、一部の地域では栽培もおこなわれています（図1）。自然条件では9月下旬から10月上旬に開花しますが、9月上中旬や茶花需要が多い11月出荷のための開花調節技術が求められています。そこで、日長処理による開花時期の調節技術を検討しました。

研究の成果

- ① 8月初めから開花時期まで遮光をおこなう短日処理（8時間日長）により、開花は自然日長に比べて21日早い10月2日となります（表1）。
- ② 6月下旬から開花時期まで電照を用いて長日処理（16時間日長）することにより、開花は自然日長に比べて11日遅い10月30日となります（表2）。

成果の活用面・留意点

- ① キイジョウロウホトトギスの開花時期は日長処理により調節でき、出荷期間拡大のための開花調節技術として利用できます。
- ② 短日処理による開花促進日数および長日処理による開花遅延日数は、温度条件により異なります。



図1 キイジョウロウホトトギスの開花状況

表1 短日処理期間が開花時期に及ぼす影響

短日処理時期 (月, 日~月, 日)	処理期間 (日間)	開花始め (月, 日)	開花の前進 (日)	*
7. 1~10. 2	93	10. 2	21	
7. 16~10. 3	78	10. 3	20	
8. 1~10. 3	63	10. 3	20	
自然日長	-	10. 23	-	

注) 試験場所：御坊市、暖地園芸センター内（標高約50m）
 供試材料：暖地園芸センター内で育苗した4年生苗
 短日処理：8時間日長に遮光
 耕種概要：葉焼けを防ぐため6月下旬から60%遮光
 調査年次：2004年 *：自然日長との比較

表2 長日処理期間が開花時期に及ぼす影響

長日処理時期 (月, 日~月, 日)	処理期間 (日間)	開花始め (月, 日)	開花の遅延 (日)	*
6. 25~8. 20	56	10. 23	4	
6. 25~9. 19	85	10. 23	4	
6. 25~10. 30	126	10. 30	11	
自然日長	-	10. 19	-	

注) 試験場所：御坊市、暖地園芸センター内（標高約50m）
 供試材料：暖地園芸センター内で育苗した3年生苗
 長日処理：電照により16時間日長
 耕種概要：葉焼けを防ぐため6月下旬から9月下旬までヨシズで遮光
 調査年次：2000年 *：自然日長との比較

(問い合わせ先：0738-23-4005)